

世代超え体育祭で汗

鹿嶋

清真学園高・中 卒業生も参加

清真学園高・中（柴山修二校長）の体育祭が4月29日、鹿嶋市宮中の同校グラウンドで開かれた。2028年の創立50周年を控えて母校への思いを深めてもらおうと、卒業生も参加する種目を初めて実施。1期生

から今春卒業した45期生まで約50人が参加し、生徒たちと「大先輩」が世代を超えて共に汗を流した。

同校の体育祭は全生徒を、学年やクラスを超えてAからFの六つの「団」に編成して競うことが特徴。



卒業生と生徒と一緒に参加した「大玉送り」＝鹿嶋市宮中

所属する団は6年間変わらず、それぞれチームカラーもある。

卒業生たちは在校時と同じ団に加わり、生徒とおそろいの色の鉢巻きを締めて「大玉送り」の競技に臨んだ。頭上で弾む大玉をキャッチしようと、生徒と一緒に力いっぱいジャンプする姿も。卒業生たちは学生時代に戻ったような笑顔を見せ、歓声を上げた。

当初、卒業生側からはOB・OGのみが参加する種目を想定した打診があったが、生徒でつくる体育祭実行委員会が合同での実施を提案。副実行委員長で高校3年、永尾仁さん（17）は「すごく貴重な機会。先輩方がつくってくれた体育祭なので、気持ちを後輩たちにつないでいきたい」と思いを語る。

同校同窓会長で2期生の

銚田市飯島、県教委職員、関根康裕さん（61）は「声にかけてもらい、本当にありがたかった。初期の卒業生は定年退職の年齢を過ぎ、仕事面で余裕ができてきた。自分たちの経験を生徒たちに還元できれば」と話していた。（村田知宏）